平成18年 (2006)

発行/鹿児島県喜界町役場 〒891-6292 電話0997-65-1111 編集/企画課 印刷/南日本新聞開発センター

町村合併50周年記念



前身

町民の御協力と期待のういがしかれ、一六〇〇〇 から、はや九ヶ月が経過い喜界町として発足して、新し 町長選挙、議会議員選 続けられてきました。しちに新町育成への努力が 算編成がつぎつぎ行われ挙、行政機構の改革、予 壱氏(故)は「昨年九月 界たより」が発刊された。 しております。その間、 三十一年九月十日の翌 無限である』。 かしながら『道は、 当時の喜界町長・豊岡 日、『旧喜界、 喜界町が誕生した昭 現在の「広報きかい 合併した 早町

(「広報きかい」 刷 拶を述べている。 が肝要であります かに建設するということ

問題をいかに解決し、

後によこたわる困難な諸

果をすぐに期待すること

は早計であり、

むしろ今

趣旨に照らして、その効

りましょう。

町村合併50周年に寄せ



和夫 喜界町議会議長 乾



加藤啓雄 喜界町長

合併から五十年を迎える節目の年でございます。また、今年は、町村合併五十周年と併せ、二十数年前

和三十一年九月十日に喜界町、早町村が合併し、新しい喜界町が誕生いたしました。今年は、その

皆様方におかれましては、平素より町政各般にわたってご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

村合併五十周年を迎え、一言ごあいさつを申し上げます。

を図ってまいる所存でございます。 務できますことに、関係各位、町民の皆様方に心から感謝し、職員共々、さらなる行政サービスの向上 した。古来、島に生え親しまれてきた樹木を植栽した、町民憩いの場「町民の森」に囲まれた庁舎で業 た。五月二日には、多くのご来賓を迎え、落成式を挙行いたしたところでございます。 から建設基金を創設して進めてきた待望の喜界町新庁舎とコミュニティーセンターが完成いたしまし 広大な畑地、海原を越えた向こうに大島本島を一望できる景勝の地に、近代的な庁舎が完成いたしま

ところでございます。 してきた結果であり、各人のご努力と各般へのご協力・ご指導・ご支援があってこそと強く感じている こられた先人達、そしてなにより町民各位が共に力を合わせ、「新生・喜界町」の限りない発展に邁進 このような素晴らしい日を迎えることができましたのも、半世紀にわたって幾多の変遷を乗り越えて

とともに、全力で喜界町の「今」を支えていこう、と決意を新たにするものであります。ともにがんば 料は群島一安い、すばらしい町民性です。でも、あまり頑張りすぎないで」とお褒めをいただきました。 また、県の福祉事務所長からは「喜界町は、生活保護世帯の割合が少ない、 税の滞納も少ない、 介護保険 働組合員からは「住民サービスの充実には、まず役場職員の質の向上を」との心強い発言もありました。 ている。自立自興の精神を忘れず夢と希望を持って進め」と励まされ、参加者一同感銘を受けました。 足跡の確かさと現町長の施政方針の正しさを国が証明してみせています。 先日の記念シンポジウムで講師の久岡学氏から、「未来は足元にある。 総務省の新しい財政指標「公債比率」で喜界町は一一・一%という県内第四位の数字でした。先達の 女子中学生からは「明るい未来をつくり出すのは、私たち自身です」とのメッセージがあり、若い労 喜界町は資源・人材ともに揃 私たち議会人もまた行政当局

ター多目的ホールで開かれた。

年記念シンポジウム」が九月十日、町コミュニティー

・セン

「未来へ50年後の喜界町」をテーマに、「町村合併五十周

(3)

合併50周年記念 3

年後の

行政課題

加藤町長

と思います。 パネル討議を進めていきたい の皆さんにご登場いただき、 喜界町のまちづくりの主役

\Diamond \Diamond

に考えなければいけないの 喜界島においては、まず最初 おります。 これから単独でやっていく 財政問題だと常に思って

▽地方交付税の現状

将来につないでいけるのかとい うやれば健全財政を確保して 毎年一億円以上減らされてき ている。こういう自治体でど の綱と言われる地方交付税が 財政再建と絡んで、本町の命 で報道されている通り、 新聞、テレビなどメディア 国の

> うことを常に考えおります。 施設職員の現状

す。 という大きな悩みがありま 施設が沢山あり、それぞれ職 というように、行政部局外の 療所、と畜場、火葬場、老人 を持たなければならない。診 員を配置しなければならない ホームとかクリーンセンター で、都市並みにいろんな施設 「一島一町」でありますの

らない。これが行政の大きな 数は少ないのであります。 ますが、実は、類似団体の他 しては職員を抱えなければな かし、先程言ったようにいろ の町村より町長部局の職員の んな、はんさなー」と言われ から「職員はうっさそうあら んな施設があるために全体と 町政懇談会などでよく住民 L



たって熱心にディスカッションが展開され、会場の町民 望」と題し、島の現状と課題などについて約四時間にわ

からもまるごと喜界島を捉えた提言が出された。

町内小・中学校六校の児童生徒代表の「未来へのメッセー

年後の喜界町ー未来は足元にある」と題する基調講演・

南海日々新聞社編集局整理部副部長の久岡学氏の、

ジ」朗読、パネル討議などがあった。「本町の将来への展

問題じゃないかと思っていま

▽合併効果

あるのかということ。 どないわけです。 たのは、喜界島に合併効果は 市町村合併の時に一番考え ほとん

町にとっては合併効果はない 皆さん (他の市町村) は、やっ てみる」というような熱烈な から「やれるところまでやっ ような気がしたわけでござい ているわけでありまして、 が面倒を見てやるというから 財政を大きくまとめれば国 特に旧早町地区の皆さん 幸いに、町民の皆様

> 先に、住民投票も行わずに町 早々に決めました。それに すごいな」と、私もそうです 民の大きな英断を頂いたこと 美群島のどの町村よりも真っ とか無駄をはぶけました。奄 併に関する会合とか、負担 よって、法定協議会とか、合 は合併しないということを てくださいます。 し他の方々もそういう評価 により、「わーちゃ島の人は る激励がございまして、本町 金

将来展望

の伝承 ▽まずは足元から『先祖から していくかということです。 来の喜界町をどうやって構築 考えているのは、 明るい未

あります。 などは今まで誰も触れません な雑柑類があります。そら豆 た、無農薬でできるゴマやそ 然条件の中で生き残ってき でしたが、そういったものが は喜界ミカンはじめ、 ら豆、また、各家々の庭先に 大事に育ててきた、過酷な自 現在、 喜界には島の先祖 いろん

ます。これらを本町の特産品 で、分析結果もすべて出てい らしい健康食品だということ の先生などに言わせると素晴 この何れをとっても、大学 ▽課題と現状

みが遅れている」と指摘した。 など)の二次製品化の取り組

需要が半数以上ある」と現状

「人口を増やす努力」。非常

「一島一町であるため島内

豊

出

力さん(赤連

半減する」、

「島内産品(ゴマ

147

(有)喜力代表/交通安全協会長

/喜界町夏まつり協賛会副会

通すと厳しい。ま

• 町観光協会会長

どの売り上げを見

伴って、小売業な

体改革や自由化に

を

述べ、

三位一

商工会長

長/元

し、若者の雇用が

公共事業が減少 た、行革に伴って

ろいろなサプリメントなどが ある。これを食の安全とかい ます。館だけではなくいろい に発信して、特産品を作り上 出回っているこのときに大い ら是非、皆さんで生かしても ろな機器類が揃っていますか 万円ぐらいかけて建設してい げたらどうか。そのために現 んとに素晴らしい自然などが ▽加工センターに期待 島にはウヤフジが残したほ 加工センターを二億八千

子でも、トーマミーの菓子で す。例えばお土産用のゴマ菓 町民どなたでもいいんで アイスクリームでも

らいたい。

です。 材を使った製品を造っていた い。島独特の安全無農薬の素 だきたいと思っているところ

農薬で安全な素材を造り、そ はないかと思っています。 あると思いますが、まずは無 やりたい」といろいろ要求は て売り込むか一 れを加工し、付加価値をつけ 「あれもやりたい、これも ― いうことで

▽最後に「人材」

ういう意見が出ます。 働く場所がない」といつも言 われます。子ども議会でもそ したが、「島は好きだけども 児童生徒の発表にもありま

働く場所というのは、サラ リーマンか役場か学校の先生

> はないかと思いました。 という感じをもっているので か、結局サラリーマンになる

は、これからの島の産業を いると思います。 人々が育ってほしいと思って 「担っていく、継いでいく」 しかし、島の大部分の

す。 ことが、将来の素晴らしい夢 漁業を育てるために、まず の実現に必要なことと思いま どうやって確保するかという 「人を、後継者を、人材を」、 島の基幹産業である農業、

いと思います。 ろいろな知恵を絞っていきた 皆さんと一緒になって、 V

かが、ポイントだと思います。

として、いかに育てていける

私は、子どもたちにとって

ち、子どもたちに夢を持たせ は島を守っていかなければい 数字はなかなか上がってこな すけれども、これも現実には I ターンということもありま が現状は難しい。Uターン、 けども観光客を増やすという 観光協会に携わっていました かないし、いわゆる若い人た 何かに取り組むにしては私達 のはキャッチフレーズはいい 12 いと思います。そういう中で 厳しいことで、

> 思います。 る島にしなくてはならないと

これは、会場の皆さんと共に くなっても喜界島に住みた さんがメッセージの中で「私 力する責任があると思います。 希望を叶えてやるために、努 われわれ大人が子どもの夢や しい」と発表されていました。 る職場がないから確保してほ い。だけど若い人たちが働け は喜界島が大好きなので大き 先程、上嘉鉄小学校の作田

> 行政とは足並みを揃えて繁栄 ければ島の活性化は図れない のために努力していきたいと 繁栄とともにありますので、 る人」など、そういうところ じゃないかと思います。 で若者の職を確保していかな が、今後は、「施設の管理をす 滑走路の問題などもあります 商工会は町の活性化、 自衛隊の追加工事や空港の

思います。 町の



黒糖製造 町農業委員/さとうきび経営 350 a / 黒糖製造·販売·体験 学習受入 /生活改善グループ

> の人たちから に行っても都会

「喜界島って沖

たように、どこ

われます。知っ 縄?」とよく言

ている人は、

みます。 片手に黒砂糖を持って売り込 手に喜界島のパンフレット、 黒砂糖を売りに行くときは片 ですよ。まだまだ島は知られ 怖い言い方をする人もいるん 生を歩んだ俊寛の島だよね」。 ら「あっ俊寛の島。悲惨な人 ていないもんですから、私は 界島って言った

|さん(志戸桶)

移住をしてみたいね」という んなきれいな島だったら島に パンフレットを見て、「こ

私も以前、 はないか」とも話した。 南村フサエ

また、「島は必要以上に手を 加えない方が伸びていくので な島の良さを再認識した」。 通じて、郷友会の皆さんの島 への思いを知るとともに新た ▽課題と現状 「特産の黒糖の島外販売を

喜禎さんがおっしゃいまし

九 演 久岡 要 学旨

成の大合併に参加せず、単独 をひしひしと感じた。 る。シンポジウムでも、 で歩んでいくことを決めてい はシンポジウムもあった。 るきっかけにしている。十日 町は各種イベントや行事に 村が合併して今年で五十年。 「一島一町」の町は今回、平 「これからの町、島」を考え 「合併五十周年」の冠を付け、 五六年に喜界町と早町 決意

たそうだ。 が無意味だったことに気付 が尋ねたところ、すぐに質問 に疑問を持った本土紙の記者 規定がないため、条例の効果 を定めて保護している。罰則 ダラの北限であり、 だが、じっくりと見渡せば多 くの資源と魅力がある。自然 美大島の東北にある小さな島 視点から見れば、オオゴマ 喜界島は約五十平方。奄 町は条例

学習でも取り上げられてい 寄りまで知っている」。毎年、 金融機関の店舗先にオオゴマ いことは小さな子供からお年 て、捕ったりしたら、いけな チョウのことは学校の総合 町の職員はこう答えた。

(5)

を配る優しさがこの島にはあ おが緩む。 本紙を飾るが、そのたびにほ ダラが産卵したという記事が 小さな生き物に心

域にあった特産品がある。 及ばず、今や全国産地に成長 ウキビの品質の高さは言うに 木スイカなど多種多彩だ。地 したゴマ、花良治みかん、荒 産業の視点で見れば、サト

になった。 置付けを考える上でいい機会 自主再建問題、平成の大合併 を実践していたのだ。農協の になった。しかし、予算がな 荷するために農道整備が必要 をめぐる一連の論議も島の位 操作した。今はやりの「協働」 する。町の職員は自ら重機を をし、ない人は労働力を提供 おカネに余裕がある人は寄付 て「五万円農道」を整備した。 い。そこで町と住民が協力し してきた時のこと。原料を出 五九年、大型製糖工場が進出 上で貴重な体験もある。一九 喜界島は「自立」を考える

くない。三位一体改革など あるといっても、ずるずると 流されていては、未来は明る 「地方いじめ」とも言える国 自立のための資源や経験が

克服してほしい。 題など古くからの課題もぜひ 歩む決意をした以上、どんな なっていくばかりだ。単独で けに頼っていてはじり貧に 主 いくしかない」のだ。航路問 に財政は厳しくても「やって |導の行革が続く中、 行政だ

る。

になったし、高知県馬路村は さまざまな圧力に屈せず、 とだ。和泊町の切り花農家は ちの足で上ろうよ」というこ 加工し、特産品化した。 厄介者扱いされていたユズを 大産地をつくり上げる原動力 る。「高いところには自分た そこで提唱したいことがあ

他所行きやお仕着せの地域振 生かす気風もある。人材もい 来は足元にある。 意工夫し、身の丈にあったシ 興策ではなく、自分たちで創 る。どこかのだれかをまねた 材がたくさんあるし、それを マづくりを進めてほしい。 喜界町には期待の持てる素 未

社説より 月十八日付、 としてまとめたものです。 ※本稿は講演を元に、社説 「南海日日新聞 九

矢

竹

るんじゃないかなと思ってお うして歩くことによって都会 の人たちにも分かってもらえ 人も現に出てきています。こ ういう思いやりがあったら、 す。島の人、一人ひとりがそ きのやりとりなどもしていま

ります。 去年、東京の人が「俊寛さ

り、島の人口も増えていくの ら一人ひとりの所得もよくな された私達一人ひとりがそう まだまだ観光でもいろんな所 ではないかなと思っていま でも産業の誘致をしてくれた によって人も増え、行政の方 だと思います。そうすること 島を伝えていくためには、残 いう役目を果たすことが大切 んじゃないかなと思います。 で喜界島を分かってもらえる 今後は農業だけではなく、

ら、その人達に島を案内しま ばいけないんだなと思いなが んでくれまして、今でもはが した。そしたらものすごく喜 の歴史、文化を勉強しなけれ 除してくれました。やはり島 わざ島まできて俊寛の墓を掃 よろしくね」と言うんです。 んですが、四人の女性がわざ 言うだけだろうと思っていた んのお墓のお掃除にいくから



JAトマト部会員 平成14年東京からUタ 町営農支援センター

ーで研修 無農薬・化学肥料を使わ ない農業を目指し就農

うしていくの

島の農業をど

か。サトウキビ

▽展望

要

などと訴え

す。

た作物だと言えると思いま す。ただ、この未来をサトウ じるところもあります。 に依存しすぎる怖さを一部 不安を覚えます。一つの作物 キビで支えていくのか支えら れるのかと考えたとき、若干 後、 ものを支えてき は今まで島その

サトウキビに取って代わる

硬プラハウスのリー コストを軽減するためには、 台風対策におけるランニング ら販路の開拓を」。「ハウスの ▽課題と現状 一農産物の量と質の両方か 毅さん(赤連) - スが必

ウキビに万が一の事があった とまでは言いませんが、サト

ものを今から手を打っていか としても、それを補うような なければいけないと思いま 決まってしまうというのは危 す。サトウキビで島の命運が

くことが大事ではないかなと ろんな分野の裾野を広げてい 思っていますので、農業のい やっていくのがベストだと ないと感じています。 いずれにしても島は農業で



朝日酒造㈱専務 東京農業大学醸造学科卒 鹿酒造勤務 (鹿児島市)

ういう問題も出てく

無化学肥料とか、そ 部分では無農薬とか

を伝える。半面、原料(黒糖) 「焼酎造りを通じて喜界島 浩 之さん (湾 ために今、研究の段階です。 すが、本当に良いものを造る 造る製糖工場の設備等も考え きればいいわけで、たくさん ていかなければいけないんで

題もあります。 ストの面もあるし、 簡単にはいかないのです。コ 良い黒糖を増やすというただ ては、簡単に言えば島の質の 伝えていない」の問題に関し 一言なんですが、それもそう 雇用の間 島外の人もそうだと思うんで ります。島の人はもちろん、 界島を感じてもらう必要があ 事になると思います。 めには人材と環境が非常に大 すが、魅力を感じてもらうた 活性化のためには魅力ある喜

か、農家を巻き込んでいくの 自分達だけで造っていくの

太報 きかい

感じています。 かということです 質の良さという

植 ▽課題と現状 村 彦さん(奄美市)

向上させないといけない。

「商品(住民サービス)」は

減っていくこと

住民がそれだけ

行ったら、島の

違う店に買いに

提供するには、職員の質の向 置」と「よりよいサービスを ŋ 上が必要」と訴えた。 がメリットはある」と話し、 「財政面での適正な人事配 返って「島は一島一町の方 合併した奄美市の現状を振

いものがよりよくで なんですが、質の良 る。まず量よりも質

▽展望

の課題も抱えている」と話し

造っていてよかったと言える

ように取り組んでいるところ

先程述べられた「喜界島を

そういことを含めて、島の

▽課題と現状

禎

品はイヤだから隣町に買いに 喜界町しかない。喜界島の商 喜界のものを売っている店は さん買いません。買わないん 品と考えれば、悪い商品は皆 を会社と考えたときに、住民 ると、住民一人ひとりの立場 住民サービスとは何かと考え 行こうとしても簡単に引っ越 ですけども喜界島にいれば、 サービスは商品なんです。商 くということなんです。役場 に立って同じように考えてい 「職員の資質」が一番大事。

町役場職員 平成9年喜界町役場採用/経 企画課を経て、平成16 済課 年4月から大島地区職員労働 組合専従

> です。若い人が それは可能なん 若い人だったら

なんで、やはり住民サービス

です。これによく表れている うのは、 ろん、それ以上に大事だと思 する住民はいないと思いま くださいよ」と言ってもOK 通すから皆さん十万円払って 民の皆さんに「ここに道路を たって「お金がないよ」と住 の知識を向上させるのはもち ご時世、何か事業をするに当 **本復帰した頃と違って、この** んと思うんですよね。昔の日 だけど、そんな大金は出せ 商品知識とか行政サービス 「五万円農道の手法」 仕事がな

役場にするには、「君の言う といったことを言ってもらう るよ」、「あるいは基金を造っ よ」「土曜、日曜、 たら。基金だったらだせる ないけども、「少しなら出せ いときだったら応援するよ」

Щ の沿革

しはできない。

改め、戸長をおくことに 喜界村は町制を施行 年、喜界村、早町村の二 界村と称した。大正八 よって両町村が合併、喜 島しょ町村制の施行に なった。明治四十一年、 し湾方、早町方の二村に 間切は三間切になり、そ た。明治二年、 役(後に与人役~横目に 市町村が合併し「喜界町 和三十一年九月十日、 なったが、昭和二十八年 覚書により行政分離と た。昭和二十一年、米軍 カ村に分村、昭和十六年 治十九年、間切制度を廃 れぞれ戸長をおいた。明 代藩所に改め、喜界島六 代わる)に島政を行わせ 下に六間切に分けて大親 代官所が置かれ、代官の 薩摩藩下の藩政時代には に完全復帰をみた。昭和 合併促進法に基づき、 二十八年施行された町村 琉球服属時代を経 代官所を 両 昭 L

ことだったら分かる。

(7)町村合併50周年記念特集号

に関する現状を統計的な見地

護受給者・母子、

寡婦貸付

齢化率・介護保険料・生活保

町章は喜界町の「喜」の平

仮名「き」を図案化したもの。 本町の合い言葉である

と「団結」を円によって表し、

古い殻を破って飛躍発展する意志を左右に突き出た鋭角で表す。逆さにしても全ているこの章で、ないので、ないないないない。

の円滑、明朗な行政を象徴

〈竜舌蘭〉

性を「恥の文化が色濃く残る

福祉行政を通じ喜界の島民

「和」

責任感が強い島」と語り、「高

▽展望

から話した。

BT

している。

花

得を向上させる。いろんな社

会負担金は上がってくるので

それによって一人ひとりの所

「雇用を特に安定させる」。

行政も万能じゃありません。 にしていくことが大事です。 だったら聞こう」という体質 かないけれども君の言うこと 難しくなっていく。 きる策というのは、これから 百パーセント住民が納得で 「住民の方にもお願いする」 逆を言え

ます。 これ の努力じゃできませんが、こ れがひとつの解決点だと思い 言ってもらえるには、並大抵 ないかなと思います。 資質の向上につながるのでは 「よし、協力しよう」と一言 が住民サービスと職員の 住民に

県喜界事務所

福祉課長 立教大学卒業後、昭和48年8 月鹿児島県庁に入庁/肝属福 祉事務所を皮切りに福祉関係 の職場に従事

これは上げ

久

る。」福祉を

安いので、

金は非常に

これは下げ る。国民年

を生み出されるので、 福祉関係で新たな需要と雇用 消費を回復させる。そこで そこか

> が分かったと思います。 考えて工夫をされていること

喜界島には自

然、

資

実させると どんどん充

実にこの島の事を真摯に

米

増

孝

造さん(赤連

▽課題と現状

そういう循環になっていけば 収になって福祉が充実する。 景気が回復すると、税金が増 よいと思います。

要を生み出し、 なっていけばいいなと感じて 喜界が農業と福祉関係で需 元気な島に

います。

町づくりをめざし、ここ 気に満ちた文化と産業の 誇りと自覚をもって、活

に町民憲章を定め、

その

編集局副部長 駒沢大学法学部卒/昭和60年 南海日々新聞入社

南海日々新聞社

ている島だということを実感

乗り越え、将来に夢を抱 題はありますけれども、 嬉しいなと思いました。 進んでいくきっかけになれ のシンポジウムが、それらを 喜界島を取り巻く様々な問 今日 いて

▽まとめ 多彩な分野から発言を頂 畄 学 さん 龍郷町 しました。

竜舌蘭(りゅうぜつらん)は長い歳 月を日照りや風雨、波浪など自然の試 練に耐えて生き抜き、見事な花を咲か せる強さがあります。町民もこの竜舌 蘭にあやかって、どんな苦しみにもう ち勝つ根性を培い、島興しに反映させ ようと町花に定められました。

シンボルカラ 〈緑〉

緑は平和と安らぎの象徴です。四季 を通じて絶えることのない緑は、実り 豊かな、そして平和で健康な長寿の島 として、私たちの誇りです。

人情豊かな楽園の喜界島が、いつま でも美しい島でありますようにとの願 いを込めたものです。

たが、「高いと 分達の足を持っ ころに上る」自 も申し上げまし いますし、先程 確認できたと思 いろあること 人材も

> 伝統をもとに、郷土を愛 して先人が築いた歴史と い自然・豊かな人情・そ

町民ひとりひとりが

わたくしたちは、

美し

実践に努めます。 、わたくしたち喜界町 をつくります。 ましい子どもの 民は、自ら学び、 育つ町 たく

ります。 にし、親切な町をつく 民は、ふれあいを大切 わたくしたち喜界町

みのり豊かな町をつく 民は、仕事にはげみ、 わたくしたち喜界町

つくります。 ととのえ、美しい町を 民は、緑を守り環境を わたくしたち喜界町

ります。

健康な町をつくります。 わたくしたち喜界 は、心身をきたえ、

S



これからの喜界島 上嘉鉄小六年

田

いづみ

が、建物だけは増えていくの かりです。 に、島の人口は減っていくば くわくしてきます。ところ 始まっていくようで、胸がわ トランなど、新しい暮らしが 機ができたこと、新しいレス い役場、一つもなかった信号 喜界島。ぴかぴかに輝く新し 少しずつ変わり始めている

がこの島に望むことは二つで 選ぶでしょう。安心して暮ら は、きっと島を離れることを きっと高校を卒業するとき でしょう。そういう私も、 も、働く場所がないからなの を聞きました。喜界島にいて 行って、島を離れていくこと 鹿児島や東京の大学などに せる喜界島にするために、私 最近、喜界島の高校生が、

きません。 ければ生活していくことがで

さが欠かせません。その一 なれる島、それが未来の喜界 の美しさを失ってはいけませ 島であってほしいと願ってい いくためには、豊かさと便利 ん。自然と人間が共に幸せに 方、今の喜界島が持つ、自然 わたしたち人間が生活して

ります。青々としたさとうき とです。島に暮らしたいとい れています。この喜界島のす 取り戻すことは難しいと言わ び畑や美しい花、そして蝶ら ると、その分、空がせまくな ということです。建物が増え う思いがあっても、収入がな の宝です。いつまでも守って ばらしい自然は、わたしたち しょう。一度失われた自然は く場を作ってほしいというこ ほしいと思います。 の姿も減ってしまうことで 二つ目は、若い人たちの働 まず一つ目は、自然を残す

未来の喜界島に 早町小五年





だからこそ未来の喜界島に今 たくさんあります。 よりよくなってほしいことが ぼくは喜界が大好きです。

温だん化を止めることになる は排気ガスを減らせば、地球 ものを減らすことです。理由 し、人にもいいからです。 一つ目は、排気ガスを使う

海鳥や川辺にいる鳥の頭や体 がをさせます。以前テレビで と、生き物にもたくさんのけ ます。ごみを捨てたりする さん落ちていて、びっくりし がささっていたのを見て「ご にダーツで使うような、はり や、たばこのすいがらがたく いました。 でめいわくがかかるぞ」と思 みを捨てたらいろんなところ です。遊んでいると、空き缶 二つめは、ごみのポイ捨て

も増えるかもしれないからで 高です。もっともっとたくさ す。喜界島の黒ざとうは、最 で有名になってそれで観光客 そうすれば喜界島が日本全国 もっと有名にすることです。 からです。 んのひとに食べてもらいたい 三つ目は、さとうきびで

ます。ぼくは、ひこうきから には、美しい自然と海があり 見る喜界島が大好きです。緑 四つ目は自然です。喜界島

> の島とすきとおった青い海。 いなと思っています。 全体で取り組んでいけたらい にえらばれるように、喜界町 いつか喜界島が世界自然遺産

だと思います。 後つぎです。さとうきびは、 ならないようにする事が大切 のでその後つぎの人がいなく ほとんどお年寄りがしている 五つ目は、いろんなことの

ます。 ていけたらいいなと思ってい ていくようにみんなで努力し うにそして、さらによくなっ 喜界島のよさを失わないよ

喜界大地 の恵みを未来

荒木小五年 豊 乃



らこの喜界島に住んでいま チで泳いだりしてきてこの島 す。小さいころから公園へ がとても大好きです。だけ 行って遊んだり、スギラビー わたしは、 生まれたころか

> ど、この島に対して三つ思う ことがあります。

島を結ぶ大きな橋ができると いいなということです。 一つ目は、喜界島と奄美大

を使うとすぐに行けるので、 年寄りの人もバスやタクシー 思います。橋ができると、お もいいので、とても便利だと あれば朝早くから起きなくて けないのでつらいです。橋が きて船に乗って行かないとい 行くためには、朝の四時に起 遊びに行きます。奄美大島に わたしはよく、奄美大島へ

> いなと思います。 美大島を結ぶ橋ができるとい 喜界島のみんなが喜ぶと思い わたしは、喜界島と奄

ごみの島になってしまうの なってしまうと思います。わ まだと喜界島がごみの島と 時から美化活動をしていま 供会では、ボランティアとし やめてほしいということです。 ポイすてに気を付けると喜界 のみんな一人一人が、ごみの は、とてもいやです。喜界島 はいきません。私は、このま なかなかゴミの量は、減って す。しかし、毎月していても て、毎月第三日曜日に、朝八 島はもっときれいな島になる たしは、大好きな喜界島が、 二つめは、ゴミのポイ捨てを わたしたち荒木小学校の子

と思います。 みんなに大切にしてほしいと 三つ目は、喜界島の自然を

です。 す。わたしは、いろいろな所 た」ということです。今以上 で鳥の鳴き声を聞いてみたい に緑が多く、鳥の鳴き声が いうことです。 いっぱい聞こえていたそうで 「もっと自然がいっぱいだっ お父さんの話では、

です。 界島の自然を守っていきたい わたしは、みんなでこの喜

私は、

海もきれいなこの喜

界島にしていきましょう。 界島を、世界で一番美しい島 てをやめて自然いっぱいの喜 にしたいと思います。 みなさんも、ごみのポイ捨

観光から人口増加を目指 第二中二年

喜界島のこれからも続くだ



ろうと思う問題点は、人口減 す。昔は、何百人もの生徒が 近で感じている事でもありま 少だと思います。私が一番身 数が少ないとできない事が多 小さな学校になりました。人 今では、二十人ほどのとても 通っていたこの第二中学校も が年々減ってきているからで す。なぜなら、学校の生徒数

くあります。

ことです。引っ越して来たい 二つの理由が考えつきまし ません。特に観光場所は、喜 す。二つめは、空き家がない まり知られていないことで す。だから、もっと積極的に 界島に旅行へ来てくれた人へ とは思っても家がないと住め 島の史跡などをまわるウオー す。例えばわたしなら、オオ 高めていくべきだと思いま アピールできる必要な要素で た。一つ目は、観光場所があ でいる季節に、百之台や喜界 ゴマダラなどのちょうが飛ん は、なぜなのか考えてみると 喜界島の人口が増えないの

> るような花を植えれば、島の をすれば、島外から遊びに来 印象も更に明るくなるような す。そして、観光とは少しそ ではないかと思います。 気がします。このような工夫 れますが歩道に年中咲いてい あったら、うれしいと思いま たり移住してくる人も増え、 クラリーのようなイベントが 人口もどんどん増えていくの

とにチャレンジしてみたいで 活気あるものであるようにし ていきたいと思っています。 す。そして、未来の喜界町が の友達を作り、いろいろなこ 喜界島の人口を増加させ わたしは学校でたくさん

できることから始

早町中二年

場所があふれています。 周りには自慢できる喜界島が 齢者までが楽しいひと時を共 域の小さな子どもたちから高 る豊かな土壌・・・・。また、地 トウキビ、ゴマがたくさん実 海。そしておいしい空気、サ たくさんあります。大好きな 有する十五夜行事など、私の い気持ちになれるような青い そんな大好きな喜界島で渦

太報きかい

二十メートル下の魚まで見渡

ごす中で感じている不安が二

島独特の文化である方言、

ていて、泳ぐと海のような広 せ、いろいろな生き物が生き

つあります。

物を大切に使うなど、できる やさない活動をゴミの分別、 が、自然の中に人工ゴミを増 と。そして、小さなことです

うことになります。一つの方 は、未来において、互いをい 葉、即ち方言を使っている人 ても寂しいことです。 るのではないでしょうか。 言から心を学ぶ機会もなくな たわりあう言葉が消えてしま く使われていないということ である方言が若い世代では全 心を通わせてきた、心の言葉 たことです。喜界島の人々の が、「高齢者」の方ばかりだっ しか聞くことのできない たときのことです。喜界島で それは地域の行事に参加し

うと行動するのは今です。 を呼び込むための観光化など ことです。私たちが住みやす 界島の生態系が壊されている 豊かな海の恵みにあふれた喜 ミの声、伊勢エビ、ガラなど り、十一月まで響く元気なセ 方言を使いこなしていくこ 流し、生活の中から生まれた 危惧しているこの点を、 から自然が壊されています。 い環境を求めるため、観光客 し未来へ喜界島のよさを残そ 二つ目に朝は小鳥のさえず まず、積極的に高齢者と交

> ことから始めましょう。私の 自慢の喜界島を未来へ残し、

> > 未来の人たちにも喜界島を愛

してもらうために・・・・。

未来の喜界島

どうなっているのでしょう 界島」です。 か。私の未来の喜界島は、 んなの笑顔があふれている喜 「自然がたくさんあって、み 未来の喜界島は、いったい

島は都会とちがってたくさん この喜界島を大切にして未来 私たちは自然のおかげで生き のいいところの中の一つは、 のいい所があります。もちろ ふれている喜界島では、喜界 て二つ目、みんなの笑顔があ を残したいと思います。そし の喜界島でもたくさんの自然 いません。なので自然がある ているのに自然を大切にして 壊がおこっています。でも、 ん悪い所もあります。喜界島 最近、日本各地では自然破

第一中三年 成 田 香

地域が一体となって行事・イ る喜界島であってほしいと思 だと私は、思います。だか そ、喜界島しかできないこと す。これは、喜界島だからこ ベントを完成させるところで んなで協力しあって笑顔が栄 ら、私の未来の喜界島でもみ います。

たちの手で作り上げていきた 切に喜界島らしい喜界島を私 喜界島カラー「緑」自然を大 ころはどんどん直していって を守っていき、そして悪いと 私の故郷「喜界島のよい所」 きていろいろな物が発達する もしれないし、新しい時代が 喜界島を出ていく人がいるか いと思います。 かもしれない。けれど、私は 私達が大人になったらこの

りません。未来の喜界島、 来へ歩んでいきたいです。 けいけんと努力をしながら未 かりと受けとめ、たくさんの え、未来は私達にたくされて 界島になるかは私達にも分か います。そのことを心にしっ 未来の喜界島、どんな、喜

昭和30年代



昭和34年2月15日発行/「町政喜界だより」第2号 見出し:「明けゆく郷土の港」

台風や冬の海の時化など自然的・地理的悪条件を解消するため総事業費1億円(当時)を投入し整備が進められた。

「将来、本港(早町港)を中心に南方漁業への躍進が大きく期待されると共に本町の産業、文化は一段と飛躍するだろう」と述べられている。



昭和32年9月発行/「町政喜界だより」第4号

見出し:「新生活運動と農業革命~叫ばれている合理的營農」「ラジオ・電気という科学文明は喜界島創生以来、はじめて喜界島民に与えられた歴史的出来事である。その技術は、人間の創意工夫によって構築された。農業においても干ばつ暴風を防ぐことは困難であるが対応した設備、農法を科学的に研究し、緊急に農業革命を断行することが、真の意味で初めて私たちの生活は安定するのでは」と呼び掛けている。



昭和32年発行/「町政喜界だより」第6号

見出し:「新町の難題~赤字解消、ようやく見通つく」

当時の予算規模は約七千八百万円程度。支出が最も多いのは、奄美群島復興事業費38,27%、次に役場費が33,07%、続いて教育費が12,24%となっている。

財政事情公表によると「道路橋梁、港湾などに巨額な財源が必要。本町の財政は財源にうみ合わせて予算に計上しなければならず従って現在の貧しい財源ではどうしても十分な施策は出来ない」とされている。



▲人の往来で活気づく湾港

画像と広報紙で



▲空から見た操業前の生和糖業



▲塩道側から貨物船が入港する早町港

▲麦打ちは、農作業の中でも特に重労働であった



▲赤連の松村商店から湾方向を望む



昭和40年代



昭和40年6月15日発行/「広報きかい」第54号

見出し:「生和・大和製糖工場合併」

「さとうきびの生産増に対する処理能力や糖業をとりま く内外の情勢悪化、糖価の大暴落などによって大混乱― -」。課題も多く含まれていたが「対策として生和・大和 合併がなされた」と記載されている。



昭和42年2月15日発行/「広報きかい」第66号

見出し:「今後は高校全入運動へ~喜界高校商業科2学級を

競争率1.2倍のカベを破りなんとか高校入試の競争率を緩和 しようと高校所在地の市町村長や議長は学級増問題で陳情を 行う。結果、喜界高校も商業科2学級増設され普通科2、商 業科3にとなった。

「これまで鹿児島の照国高校などに相当数の子弟が進学し ており、家庭で仮に月一万八千円送金して、百人進学していたとすれば年間二千百六十万円もの大金が送金されることになる。今後はこれらの学生が地元の高校に進学することによって父 兄の負担は大幅に軽減される」と述べられている。



昭和46年1月1日発行/「広報きかい」第90号

見出し:「喜界町で初の知事と語る会〜船、キビ、紬、専門医 等身近な問題で質疑」

現職の知事が訪れて、知事と語る会が10月22日、第一中学 当収量が落ちていることを心配している」などと語り、「県も土地 改良・農道・町道の整備を協力していく。沖縄の復帰ということも 影響してくるが、省力化・品種改良などに積極的に取り組んで 反収をあげてほしい」と激励した。

齨 |民待望の客船| あまみ丸」就航祝賀会 (湾港桟

昭和50年代



昭和50年11月号発行/「広報きかい」第133号

見出し:「きび価引き上げ(生産者大会)」

「今期キビ価格引き上げ要求の第3次陳情団の一行81人が、10月18日午前7時半出港のあまみ丸で東京晴海ふ頭へ向けて出発した」と記載されている。



昭和50年12月発行/「広報きかい」第134号

見出し:「初の婦人スポーツ大会~綱引き競争など盛況」

島内の婦人会千人が町総合グラウンドに集い、第1回体力づくり婦人スポーツ、レクリエーション大会があった。お手玉競争や年代別リレーなどで熱戦が繰り広げられ、開催目的の健康増進や全婦人の親睦が図られた。大会は「婦人達の楽しそうな姿が印象的」とある。



昭和51年12月発行/「広報きかい」第144号

見出し:「合併20周年の記念式典を開催~功労者13人を表彰」式典は台風17号の襲来で当初予定9月10日開催から延期され、12月10日、中央公民館で開催。式典には町議会議員や区長、町民など200人が参加。「感謝状や表彰状の贈呈が行われ、最後に町のブラスバンドなどの演奏が披露され、盛況のうちに終えた」とある。繁多忠利町長(故)は「和親協力して、豊かで楽しい日々を送る姿こそもっとも美しい」として、「過ぎし20年を思い起こし、一島一町の良さを生かし、何事にも力を合わせて喜界島の発展に邁進していきたい」と挨拶を述べている。



▲昭和50年代の正月風景



▶興南丸お別れ航海



舞われた湾発電所一帯 | 当時、近年にない記録的な豪雨に見



昭和53年5月発行/「広報きかい」第160号

見出し:「にぎわう魚のセリ市」

「漁業協同組合の魚市場では、毎日朝早くから水揚げされた魚のセリ市でにぎわう。セリ場には多種多様な魚が並べられて取引され、今の時節ではサワラがもっとも多い。昨年1月から12月までの水揚げ量は約13万8千kgで毎年漁獲高も伸びている。最近、漁業無線、製氷所なとが設置されて漁船も板付船から3~5トンの小型動力船にかわりつつある」と漁業振興の成果が述べられている。

▲湾の岩田商店から赤連方向を望む



▲地球人宣言を乗せてメキシコから来航したマリガラ ンテ号



▲海の玄関・湾港と空の玄関・喜界空港の滑走路

昭和60年代



昭和60年4月発行/「広報きかい」第218号

見出し:「知識の公園完成~長島氏感謝の念で寄贈」

本町羽里出身者の長島公佑氏(故)の篤志によって建設 された喜界町図書館の落成式が同年3月14日、盛大に行わ れた。

氏は「わたしを育ててくれた郷土喜界島に感謝の気持ちを 表す方法として図書館の建設に着手した。町の教育文化の 発展のために役立ててください」とあいさつを述べている。



昭和60年8月発行/「広報きかい」第220号 見出し: 「名誉町民に繁多氏~職責を全うし、多く の業績を残す」

5期20年間にわたり、町長として町勢発展に尽 力された繁多忠利氏(故) の名誉町民称号授与式 及び顕彰祝賀会が、同年8月8日、自然休養村管 理センターで官公庁の代表や議会議員など350人 が出席して盛大に行われた。



「郡内のトップを切って地下ダム試験事業が始まる」と記見出し:「地下ダム事業始まる」昭和6年7月発行/「広報きかい」第230号

そして平成へ



平成7年11月発行/「広報きかい」第341号

見出し:「震度 5 喜界を襲う~喜界沖地震」 震度 5 の強震が10月18・19の両日、喜界島 を襲った。防災無線による非避難の呼び掛けで高台に避難する町民、混乱する情報な どパニック状態が続いた。

被害は港湾の亀裂3カ所、山崩れによる 道路の通行止め、石垣の崩れ91ヵ所などが 確認されており、また、民宿・タクシー会 社などは災害報道関係者の来島で逆に潤う ところもでたが、観光客や展示会、宴会な どの相次ぐキャンセルにホテル業界は、「一 日も早い終息を」との述べている。

役場の対応は防災無線の的確な放送で住 民からは「気象庁の判断をうのみにせず、独 自の情報を流し、敏しょうな決断は、役場 のイメージを高めた」と述べられ、混乱の中 での冷静な対応を評価。



平成11年11月発行/「広報きかい |第389号 見出し:「地下ダム止水壁が完成~農業 の多様化に期待が高まる」

平成4年に着工した国営地下ダム事業の止水壁が平成11年10月7日に完 成。町内外から関係者が集い締切式、 祝賀会が盛大に行われた。

挨拶に立った野村良二町長(故)は 「農業立島を掲げながら、地勢や自然 の厳しい条件は、将来の展望を拓く。 地下に水を貯めるという夢のような施 設の完成が現実となり感慨無量。恒常 的な水不足が解消され、多様な農業の 展開が可能」と感激の面もちで喜びを 述べている。



▲城久半田遺跡



J マ の



◆ なぜ今、市町村合併か ◆ 厳しい予測に行財政改革急務

~合併しない場合の財政シミュレーション~

平成15年6月発行/「広報きかい」第432号

見出し:「なぜ今、市町村合併か」 「町独自に作成された財政シミュレーションなどでは『来年度には基金 (貯金) 貯金も底をつく』。予想をはるかに上回るペースで財政は悪化、平成22年度には累積赤字は50億円に達する」と解説。住民、議員、職員ともに『合併反対の声は多い』。しかし、任民制労からなく、独自の財政シミュ レーションの結果に将来を不安視する声も以前より多く聞かれた。

第2回住民意識調査集計結果では「合併の不必要が76.1%、必要が 19.4%、残りが回答なし」で依然、合併反対の意向が強く見受けられる」 と合併の是非を含めた協議が深まる。

平成18年6月発行/「広報きかい」第468号

見出し:「合併50周年と新庁舎落成を祝う~児童・生徒や郷友会もメッセージ」 町民、来賓、町関係者など合わせて約300人が5月2日、町コミュニティセン

ターに集い、記念式典、祝賀会が盛大に行われた。 各小・中学校の代表3人による「喜界町の未来へのメッセージ」朗読や感謝状、表彰状が寄贈品の贈り主や町政功労者などに贈呈された。 加藤な雄町長は「この厳しい時代に町民が心と力を合わせ、これだけの大きな

事業を成し得た誇りと自信を持って、これからの町勢発展のために、一層の努 力を注いでいく」と決意を述べている。







「島への提言」を募ります

喜界町では、町民はもちろん島外に住む出身者の皆様と共に、「豊かで活力に満ちた島づくり」に積極的に取り組んでいくため、町づくりに対する意見・提言を募集しています。

お寄せいただいたご意見・ご提言は、今後の町政に反映させるよう努めてまいります。

なお、この意見・提言は今後の喜界島はどうあるべきかという羅針盤であるため、非難・中傷的な投稿は、 ご遠慮ください。

投稿の方法

- 一、手紙か電子メール
- 一、住所(島外者は出身集落名)、氏名、年齢、性別、職業名、役職を明記
- 一、提出先 喜界町役場企画課
 - ① 住所 〒891 (6292) 鹿児島県大島郡喜界町湾1746
 - ② 電子メールアドレス koho@town.kikai.lg.jp